

広島県博物館協議会令和7年度第2回会議 議事録概要

1 日 時

令和7年11月7日（金）午後1時30分～午後3時55分

2 場 所

広島県立歴史民俗資料館（三次市小田幸町122）

3 出席委員（12名）

安間会長、城市副会長、赤木委員、伊藤委員、岩井委員、浦田委員、大杉委員、佐藤委員、畑石委員、蜂谷委員、山口委員、渡辺委員

4 欠席委員（3名）

出原委員、菅田委員、道面委員

5 担当部署

広島県教育委員会事務局管理部文化財課（082-513-5021）

6 議事概要

(1) 開会

本会議は、広島県博物館協議会条例第5条第2項に規定する定足数を満たしており、成立することを確認した。

(2) 挨拶（文化財課課長）

(3) 委員紹介

(4) 議事

- ・会長及び副会長の選任

委員の互選により、会長に安間委員を、副会長に城市委員を選任した。

- ・第13期広島県博物館協議会の運営方針

第13期の協議会のテーマを「地域に根ざした博物館づくり」とした。

- ・各館の概要説明

各館の概要や地域の多様な主体との連携に関する現在の取組等について、県立美術館及び歴史博物館が説明を行った。

県立美術館は、現在の取組として、出張講座の実施、対話型鑑賞、特別展の出張授業、市町との連携、特別鑑賞会の実施、映画館との連携などを挙げた。

実施上の工夫としては、広報の工夫として美術館ホームページやチラシ、SNS 等を活用した情報発信及び広島県観光連盟を通じた観光事業者や観光ガイドへ周知（特別鑑賞会）を挙げた。

それらの結果として、出張講座では、学芸員が地域や学校等へ出向き、対象に合わせて分かりやすく話をすることで、作品への接し方、見方への普及を行い、美術館への関心や親しみを醸成することにつながったとした。また、対話型鑑賞では、展示作品について学芸員と来館者が双方向で対話しながら鑑賞することで、自分一人では得られない多様な視点や発見が得られたとした。さらに、障害のある方を対象とした対話型鑑賞会の実施を契機に、多様な人々の状況に応じた学芸員の柔軟な表現力や説明力の向上に繋げることができたほか、関係団体と協力して「多様で包摂的なアクセシビリティに向けて広島県立美術館ご利用案内動画」を制作し、その動画を HP に掲載することができたことを挙げた。

今後取り組みたいこととしては、幅広い層からの来館を更に増やすため、特別展と連動したイベント等の企画に当たり、引き続き、関係機関と連携して取り組んでいくとした。また、縮景園に多くの外国人観光客が来園していることから、外国人の方にも来館いただけるよう、関係機関と連携した効果的な情報発信や多言語対応（多言語音声ガイド、展示室での翻訳アプリの利用など）の充実等により、利用促進を図っていくことを説明した。

歴史博物館は、現在の取組として、「草戸千軒お化け屋敷（歴史×心理学）」について説明した。

実施上の工夫として、企画の工夫においては、夏休みに小学生とその保護者を対象としたイベントを実施することで、館及び草戸千軒町遺跡の知名度を高め、親しみをもってもらうとともに、参加者の再来館を促すことを意図して内容を構築している点を挙げた。また、このお化け屋敷は、福山大学の博学連携・地域連携として実施しており、教育普及活動としての質を確保するため、学芸員と大学教員が計画的に指導・助言を行い、そのもとで心理学科の学生が主体的に準備・運営に取り組んでいる点を挙げた。広報の工夫としては、ホームページやXで情報提供するほか、福山市内の小学校にチラシを配付している点を挙げた。

それらの結果として、心理学実験の結果から、お化け屋敷に参加することにより、児童の防犯意識が向上したことが明らかとなった点を挙げた。また、保護者についても同様に、防犯意識が高まったことが確認されたことを挙げた。さらに事前・事後アンケートの比較分析から、児童・保護者ともに、歴史への興味・関心及び博物館への親しみが有意に向上したことが示されたことを説明した。また、80%以上の回答者が、「再び博物館を訪りたい」、「博物館の他のイベントにも参加したい」と回答し、そのうち約半数が最高点（とてもそう思う）を付けていたことを挙げた。他にも 地元大学と連携して博物館で体験型イベントを実施することにより、参加した学生自身が地域の歴史や文化に触れ、地域への関心と理解を深める機会となった点を説明した。

課題としては、お化け屋敷の会場は、照明を暗くした実物大復原展示室で実施するため、展示物の保護に十分配慮するとともに、学生が安全に演出を行い、参加者も安全かつ快適に楽しめるよう仕掛けや動線を工夫する必要があること、また学生の入替わりがあるため、次の世代へ企画や演出に係るノウハウの引継ぎを行っているが、毎年度、新たな仕掛

けや演出を取り入れていることから、館との調整を含め、事前準備に一定の時間をかけて取り組む必要があることを挙げた。

今後の取組については、体験型イベントにおける教育的効果とエンターテインメント性の両立を意識しながら、今後、草戸千軒お化け屋敷をどのように発展させていくかという点について、委員から意見をもらいたいとした。

《主な意見、質疑応答等》

(委員) 歴史博物館のお化け屋敷の説明を聞いて行ってみたいと感じた。これに関連して、鎌倉時代から室町時代にかけてお化けの存在はあったのか知りたい。

(歴史博物館) 鎌倉時代から室町時代にかけて、説明がつかないことを魑魅魍魎の仕業と考えていたことがいろいろな資料から分かる。「もののけ」は平安時代から言葉があるが、お化けはもっと時代が下ってから、妖怪がそれよりももっと下るのではないかと考える。恐らく大きな概念としては同じようなものを指していたと考えており、草戸千軒にもそういうことがあったと考える。

(委員) 歴史博物館のお化け屋敷について、児童の防犯意識が向上したという点に大変興味がある。お化け屋敷がどういう効果、意図を持って防犯意識に対して作られているのか、また、子どもたちの意識が変わったというところに関し、具体的にこの部分がこのように高まっているというのが分かれば教えていただきたい。

(委員) (歴史博物館のお化け屋敷を共同で取り組んでいる委員から説明) 歴史博物館のお化け屋敷については、犯罪心理学の一分野である犯罪不安の知見を逆手に取り作成している。体験後に、なぜこのお化け屋敷が怖かったのか、どのような場所が怖かったのか、普段どのような場所を怖いと感じるのかについて説明をしっかりと行っている。また、不安が高い状態が本当にいけないのかを考えさせる機会を設けている。犯罪不安が適度にあること、そして適度に防犯意識を持ちながら活動していくことの重要性を伝えながら、地域の人から見えにくい場所や犯罪者が入りやすい場所に気をつけようという説明をしている。その後、犯罪不安を普段どの程度持っているのか、防犯意識をどの程度持っているのかということを体験前後で比較し確認して、その数値の変化というものを見ている。

(委員) 両館がすごくいい事業をされていると思うが、各館から離れた地域にも出前講座などを積極的に行っていただき、各館から離れた地域の子どもの対しても本物に触れる機会を作っていただきたい。また、各地域にある博物館などとも連携し、県立の博物館などからアドバイスをもらえるようなパイプができればいいと思う。

(委員) 県立美術館はとても魅力的なイベントをしていると感じたが、遠方の地域にいる人の認知度が低いのではないかなと思う。遠方の地域に対する集客については、親世代がどれだけ子どもを連れて行きたいと感じるかが重要であると考えており、子ども向けであっても親世代も一緒に楽しめる取組がすごく重要だと感じている。

(委員) 県立美術館で行われた視覚障害のある方への事業について、成果として職員の対応力が増したというのがとても素晴らしい。知的障害のある子どもの場合、静かにすることが難しく来館のハードルが高いが、そのような子どもも気軽に接することができるよう出前授業などをしっかり活用していきたい。

(委員) 地域に根ざしたということになると、展示内容とは別に具体的に出張事業にでられるような文化的な拠点（環境づくり）が各地域に必要なと思う。

(委員) 広島県には大きな自然史系の博物館がないが、自然史についてもしっかり保管し資料を紹介する場所や機能が必要だと思う。

歴史民俗資料館が施設の概要について説明を行った。

- ・施設視察

歴史民俗資料館の企画展（秋の特別企画展）を解説を聞きながら視察した。

- ・歴史民俗資料館の取組について

歴史民俗資料館が地域の多様な主体との連携について説明をした。

まず、地域連携の目的（必要性）を説明した。歴史民俗資料館は風土記の丘の古墳群を始め多くの文化的資源を有しているが、文化的資源は地域の歴史や社会の中に根差して存在しているとした。また人々は自らの文化的背景や歴史を再発見することを通じて地域への誇りや愛着を育むが、それらが地域の活性化や賑わいづくりにつながるものであると考えているとした。その上でこうした博物館の機能を十全に発揮するためには、地域との連携は不可欠だと説明した。

次に、連携状況として、夏の特別企画展及び教育事業における、各団体と連携した様々な取組について説明した。

実施上の工夫及び成果として、令和7年度の夏の特別企画展「食品サンプル展」を例に説明した。歴史民俗資料館の夏の特別企画展は、「親子で楽しめる展示会」としての評価が定着しつつあるが、令和7年度の夏の特別企画展では親子連れをターゲットに周遊できる内容を構築するとともに、多様な主体との連携を推進できたと説明した。展示会の構成においては、元々食品サンプル展は企画会社による巡回展であり、展示内容の多くが固定された巡回展であるが、歴史民俗資料館からの提案により地元の食文化を反映した内容に拡充したことを説明した（地元の食の食品サンプル展示、県事業とのコラボレーション）。広報活動においては、三次DMOに対し、展示構成検討段階から協議に参加いただいたことで、広報資料作成における助言及び三次DMOのSNSへの掲載、テレビ番組へ取り上げにおいて支援していただいたことを挙げた。ワークショップにおいては、県北地域において食に関する専門教育を行っている県立庄原実業高等学校と連携し、食に関わるワークショップを実施した点を挙げた。成果としては、親子で楽しめる内容、投稿しやすい環境、地元の歴史文化に関わる内容など、総合的な工夫により、歴代2番目（16,261名）の入館者を得たとした。また、この事例は、多様な主体との連携の成功例として、多くのつながりを得たと説明した。

地域連携を推進するための課題としては、人的資源の不足、日頃の業務と他団体との連携のバランス、他団体との連携において、当館の専門性や企画方針をどの程度主導的に反映させるかという点を挙げた。

今後の取り組みとしては、現在の連携を深化させていく方策をさぐるとともに、学校との連携を継続し、地元の歴史文化に誇りを持てる人材を育成し、また多様な主体との連携も深化させることで、地元への理解と誇りを高める機運を高めたいとした。

この協議会の中で協議したいこととしては、地域の多様な主体が博物館を舞台として活動したいこと及びその阻害理由、他団体と組織として関係を構築・継続していくための方法を挙げた。

《主な意見、質疑応答等》

- (委員) 歴史民俗資料館で長年活動しているが、10年程前に三次市内の様々な体験に関わる団体が歴史民俗資料館に集まり、各団体及び歴史民俗資料館がそれぞれのビジョンを語り合う場があった。その中で、歴史民俗資料館と一緒にしたいことを語り合った。地域の多様な主体が博物館を舞台として活動したいこと及びその阻害理由、他団体と組織として関係を構築・継続していくための方法について、意見を聴きたいということであったが、このような他団体とのコミュニケーションの場を設けることが必要だと感じた。
- (委員) 先程特別企画展を拝見したが、小学生にとってすごく分かりやすいと感じた。体験したり実際に見たりする経験は、すごく記憶に残ると思う。資料館や美術館による各地域との連携はあると思うが、各地域でこのような施設をつくることは難しいと思うので、館のある地域だけにとどまらず、そこから地域と地域の連携やつながりを使い、また資料館、博物館同士のコラボレーションなど、広島県全体が活性化する流れを作っていくことがすごく大切だと感じた。
- (委員) 人的資源不足については、活動を体験した子どもが、次はボランティアとして活動するということができたらいいのではないかと感じた。
- (委員) 三次商工会議所、奥田元宋・小由女美術館と連携した企画である「子どもたちに贈る三次の夏休み」については、13年続いているということは、やはりいい形になっているということだと思う。県立、市立、私立の美術館や博物館が一緒になって事業をすることはとてもハードルが高いことがあるのは重々分かるので、商工会議所や商工会のような組織が間に入るといいと思う。
- (委員) 美術館や博物館は、やはり地域の核になっていくべき存在であり、非常に重要な拠点になっていくと感じた。一つの可能性ではあるが、美術館、博物館と看板は違うが、まずは県立の3館がそれぞれの所蔵作品などを巡回させるといったことをしてみると、それぞれの地域の人たちが年何回か、様々な展示を見ることができるようになるのではないかと感じた。
- (委員) 校長会の場などで、今聞いたような情報をしっかり共有し、広めていきたいと改めて思った。
- (委員) マンパワーの不足に関して、既に高校とはいろいろな連携をされていると思うが、大学生は高校生よりも主体的に活動できるようになるので、大学生を巻き込んでいくこともとても重要になると思う。例えば、県警では防犯ボランティアを委嘱し様々な活動をしてもらっているが、そのように文化や歴史を広める役目として大学生に委嘱し、イベント等を任せるとしてもマンパワーの不足を補う一つの手立てになると考える。
- (委員) エジプト展のように単体の企画で集客できるようなものはそれでいいが、基本的には三次にある様々な施設を周遊してもらえるような戦略を立てるのが大切だと思う。そのようなことを意識して、PRの仕方やチラシの作り方、SNSの載せ方を工夫すると、来館者が増えると思う。そういった意味では、「子どもたちに贈る三次の夏休み」の事業はとても素晴らしい取組だと思う。